PRESS RELEASE

群馬大学
GUNMA UNIVERSITY

2026 年 11 月 5 日

報道関係者 各位

強皮症に伴うレイノー現象や手足の皮膚潰瘍に対する ボツリヌス毒素局所注射による治療を開始

－2026 年 11 月から特定臨床研究として自費診療で実施－

群馬大学医学部附属病院（群馬県前橋市）皮膚科（茂木精一郎教授）は、2026 年 11 月 5 日（水）から、全身性硬化症（強皮症）に伴うレイノー現象や手足の皮膚潰瘍に対し、ボツリヌス毒素の局所注射による治療を、**特定臨床研究の枠組みで自費診療として開始**します。
これまでに皮膚科が取り組んできた医師主導治験などの経験を生かし、冷えや痛みの軽減、潰瘍の治癒を目指すとともに、治療の有効性と安全性を検証します。

1. 本件のポイント

- **強皮症による血流障害に対する新たな治療の選択肢**
  従来の治療で十分な改善が得られず、冷えや痛み、治りにくい潰瘍に悩む患者さんに対して、ボツリヌス毒素局所注射による症状の改善を目指します。
- **これまでの臨床研究を生かした全国初の取り組み**
  群馬大学医学部附属病院皮膚科が重ねてきた臨床試験や医師主導治験を踏まえ、特定臨床研究として自費診療で本治療を実施します。この枠組みによる取り組みは全国初となります。
- **治療効果と安全性を継続的に検証**
  研究への参加条件を確認し、治療方法、期待される効果、副作用や費用について十分に説明したうえで、患者さんの意思に基づき参加をご検討いただきます。治療後も経過を丁寧に確認します。

2. 本件の概要

●背景と課題

全身性硬化症は、皮膚や内臓が硬くなる線維化に加え、血管の障害を生じる疾患です。寒さなどをきっかけに指先の色が白色や紫色、赤色に変化する「レイノー現象」や、さらなる血流の低下によって生じる手足の皮膚潰瘍を伴うことがあります。
冷えや痛み、しびれ、治りにくい傷は、家事や仕事などの日常生活に大きな負担をもたらします。従来の治療を続けても症状が十分に改善しない患者さんもおり、新たな治療の選択肢が求められています。

●これまでの研究と今回の取り組み

当院皮膚科は、強皮症に伴うレイノー現象や手指潰瘍に対するボツリヌス毒素局所注射について、医師主導治験をはじめとする臨床研究に取り組んできました。

今回、その経験を生かして、**特定臨床研究として治療を開始**します。血流の改善を通じて症状の軽減や潰瘍の治癒を目指し、治療後の経過を追いながら、有効性と安全性を慎重に評価していきます。

●治療方法と研究への参加

本治療では、症状や研究計画に応じて、手足の所定の部位にボツリヌス製剤を局所注射します。治療効果には個人差があり、すべての患者さんに同じ改善が得られるわけではありません。

研究への参加にあたっては、担当医が症状や全身状態を診察し、参加条件を満たすか確認します。期待される効果だけでなく、副作用や治療後の注意点についても十分に説明し、ご理解とご納得をいただいたうえで参加をご検討いただきます。

本研究での治療には保険が適用されず、費用は自己負担となります。費用の詳細は、研究への参加をご検討いただく際に説明します。

研究への参加は患者さんご自身の自由な意思に基づき、参加を希望されない場合や途中で取りやめる場合にも、不利益を受けることはありません。

●今後の展望

当院皮膚科は、強皮症の診療と研究を通じて、患者さんの生活に関わる症状の改善を目指してきました。今回の取り組みでも、一人ひとりの症状や負担に向き合いながら治療後の経過を確認し、得られた知見を今後の診療と治療法の検証に役立ててまいります。

3. 関連リンク

群馬大学医学部附属病院

https://hospital.med.gunma-u.ac.jp/

【本件に関するお問合せ先】

群馬大学大学院医学系研究科　皮膚科学　講師　関口明子（せきぐちあきこ）

【取材に関するお問合せ先】

群馬大学昭和地区事務部総務課企画・広報係

TEL：027-220-7895　FAX：027-220-7720

E-MAIL：m-koho@ml.gunma-u.ac.jp